

生活科 1年A組	おいしい秋	上田 恵
-------------	-------	------

1. 単元について

生活科では、一年間を通して季節の移り変わりについて学習する。自然の変化、人々の様子や暮らし、町の風景など、季節の移ろいに合わせて変わっていくさまざまな様子に気付き、季節に合わせて人々がどのように暮らしているのかを学習してきた。本単元は、大単元「秋を見つけよう」の中の一つとして位置づける。

秋は、「読書の秋」「芸術の秋」「スポーツの秋」などと形容されるが、その中でも「食欲の秋」に注目し、秋の食材を使って秋を感じる献立作りをする。

2. 単元設定の理由

(1) 本実践の主張点

献立作りを柱に、秋について学ぶことで、秋の自然の様子に合わせて人々の暮らしがあることに気付き、この後やって来る冬についても、同様に自然の様子に合わせた人々の暮らしがある事を予想するだろう。

日本には四季があり、自然の様の移ろいに合わせて人々は暮らしを工夫してきた。夏は涼しく、冬は暖かく暮らす工夫、季節に合わせた服装、年中行事などである。そんな暮らし方の工夫の中で、季節に合わせた食の工夫は中心的な位置を占めるといいだろう。

(2) 教科提案とのかかわり

教科提案は、

五感を通して感じ、表現することで気付きの質を高める生活科
～real な活動を通して～

とした。

研究の展望として5つの柱を挙げている。本実践は、中でも「①リアルな体験、学習と生活の結合 ※real raw material」「②季節を感じる活動（季節の遊び、季節を食べる・栽培・飼育）※real time」「④表現活動の充実 ※representation」を提案するものである。

本学級の子どもたちは、野菜が苦手な子どもが多いが、学級園で育てた夏野菜は食べることができた子が多い。また、捕まえた虫を放置せず世話をすることができ、季節ごとに見つかる虫の種類が違うことなどにも気付いた。そこで、季節の移ろいの様子と人々の暮らしをつなぐ活動が可能ではないかと考えた。野菜嫌いが多く、小食な子が多いこともあり、もっと食に意欲的になってほしい願いをこめて、食育を題材に選んだ。

(3) 問い続け、学び続ける子どもたちをめざすために

店頭には、一年を通して同じ野菜が並ぶ現在ではあるが、農業がさかんな本県は、店頭を見ても旬の食べ物が感じられる。

秋探しをする中で、自然の様子のみならず、人々の暮らし方にまで気付きをひろげるため、食に注目した秋探しをする。給食の献立には、「夏野菜カレー」など、季節感を感じるものがあり、それとも絡めながら、「秋」を感じる献立作りをさせる。秋と食のつながりに気付いた子どもたちは、やがてやってくる冬も、冬に合わせた食があることに気付き、季節と人々の暮らしの関わりに気付くことが期待される。

3. 単元目標

◎秋の自然やくらしの様子に興味をもち、すすんで秋の献立作りをしようとする（生活への関心・意欲・態度）

◎秋を感じる献立作りを通して、秋になると多く食べられる食材があることに気付く（活動や体験についての思考・表現）

◎秋の自然の様子と人々の暮らしにはつながりがあることに気付き、自分の生活と季節のつながりに気付く（身近な環境や自分についての気付き）

【本題材で育てたい資質・能力及び態度】

めざす力 学びに向かう力・人間性	つなぐ力 思考力・判断力・表現力	実感する力 知識・理解・技能
友だちといっしょに、秋の食材探しをしたり、秋を感じる献立作りをしたりする。	秋の食材探しや献立作りを通して、季節ごとの自然の様子と人々の暮らしには関わりがあることに気付く。	秋の食材探しをする中で、季節毎に多く食べられる食材や、一年を通して食べられる食材等があることに気付く。

4. 単元計画（全時間7時間…第2次より 本時3／7）

第1次 秋の食べ物（5）（「秋を見つけよう」より）

第1時 秋探しで見つけた食べ物（1）

第2時 秋の食材を工作しよう（4）（図画工作科「見つけた秋を作ろう」

第2次 献立作り（2）

第1時 1Aおいしい秋を考えよう（本時 2／2）

第3次 秋を食べよう（3）

第1時 おいしい秋を作って食べよう（3）

第4次 秋の暮らし（1）

第1時 秋の暮らし（1）

5. 本時について

グループごとに考えたおいしい秋について話し合い、1Aのおいしい秋を考える。